

令和7年度組織目標

部局名	琵琶湖環境部
R7年度に特に注力する事項（目標）	○造林公社の抜本的見直し ・造林公社について、あり方検討委員会での議論を踏まえ、年度内に最終的な方針を取りまとめる。 目標：・あり方検討委員会と並行して、公社林を含む奥地水源林の多面的機能の持続的発揮について、森林審議会において議論を2回行い、琵琶湖森林づくり基本計画に反映する。
	○「世界湖沼の日」制定を契機としたマザーレイクゴールズ（MLGs）の進化 ・若者世代による琵琶湖保全のレガシーのまとめと発信、世界湖沼会議や大阪・関西万博等における水と湖沼の価値の発信。 目標：・共創フォーラム（令和8年2月頃）において、それらの成果を企業やNPO等の多様な主体で共有し対話することを通じ、MLGsの認知度向上や今後の進化を見据えた議論形成につなげる。
	○防災力および経営基盤強化に向けた上下水道一体での運営の検討 目標：・令和8年度までに一定の方向性を打ち出すため、関係所属との検討を推進。
	○豊かないのちを育む琵琶湖を目指した部局間連携 ・琵琶湖の水産資源を含めた生態系の回復に向け、外部有識者等も含めた関係部局による検討を行い、生態系への影響要因等を報告書として取りまとめる。 目標：・その検討結果を琵琶湖環境研究推進機構の次期テーマに位置付け、関係機関での連携研究に反映していく。
	○森林吸収源確保に向けた計画的な伐採と着実な再造林の推進 目標：・再造林面積50haの実施と林道・林業専用道等の計画的な整備を推進する。

所属名	環境政策課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○豊かないのちを育む琵琶湖を目指した部局間連携 目標： ・琵琶湖の水産資源を含めた生態系の回復に向け、外部有識者等も含めた関係部局による検討を行い、生態系への影響要因等を報告書として取りまとめる。 ・その検討結果を琵琶湖環境研究推進機構の次期テーマに位置付け、関係機関での連携研究に反映していく。
	○県外・世界を見据えた環境保全施策の深化 目標： ・大阪・関西万博等を活用した県外・世界への琵琶湖の価値発信。 ・世界湖沼の日との連携による「びわ湖の日」の取組拡大。 ・県内、県外の環境保全先進事例に学ぶ人づくりの実施。
	○次の30年を見据えた新しい琵琶湖博物館の姿の検討 目標： ・「世界湖沼の日」制定記念企画実施、大阪・関西万博等へのブース出展。 ・ナイトミュージアムや移動博物館等の事業展開、湖上観光との連携。 ・総合研究の成果発信も踏まえた開館30周年記念事業の具体化、第三期中長期基本計画の見直し。
	○【見直し・効率化】 環境と産業のバランスに着目した環境アセスメント制度の見直し 目標： ・年度内に2～3回の小委員会または審議会を開催し、手続の合理化を主眼として年度末までに一定のとりまとめを行う。

所属名	琵琶湖保全再生課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○「世界湖沼の日」制定を契機としたマザーレイクゴールズ（MLGs）の進化 目標： ・若者世代による琵琶湖保全のレガシーのまとめと発信、世界湖沼会議や大阪・関西万博等における水と湖沼の価値の発信。 ・共創フォーラム（令和8年2月頃）において、それらの成果を企業やNPO等の多様な主体で共有し対話することを通じ、MLGsの認知度向上や今後の進化を見据えた議論形成につなげる。
	○ヨシ群落の保全や利活用の推進 目標： ・ヨシの更なる保全や活用に向けて、大阪・関西万博をはじめ様々な機会を捉えて広報するとともに、ヨシ群落の状況や県内での活動等の情報を整理し、令和8年度にWEB上で発信するための編集や調整を進める。
	○琵琶湖の保全再生に係る計画の策定 目標： ・琵琶湖保全再生計画（5年間）：第2期計画の振り返りや課題整理を踏まえ、第3期計画を策定。 ・琵琶湖レジャー利用適正化基本計画（5年間）：琵琶湖ルールを守らないレジャー客（特に県外在住者・外国人）や、チャネルキャットフィッシュに対する方針を盛り込んだ計画を策定。
	○【見直し・効率化】 適合証交付にかかる電子受付率の向上（インターネット受付、キャッシュレス決済、ノーコードツールで台帳自動作成） 目標： ・交付・再交付に係る電子請求率 66.4%→75%以上 ・変更等に係る電子届出率 0%→40%以上

所属名	循環社会推進課
	○サーキュラーエコノミーへの移行に向けた第六次廃棄物処理計画等の策定と実証事業の実施
	・ 専門家や市町、団体等の意見を聴きながら、環境審議会で3回審議を行い、サーキュラーエコノミーを政策の柱とした計画素案を作成。 目標： ・ 家具のリペア実証事業について、3市町以上および民間事業者と連携し、家具の集積、修理、販売までの一連のフローを作る。また、令和8年度に実施する政策提言に向けて課題を洗い出す。
	○「環境美化の日」および「おもてなし清掃」をはじめとした環境美化活動の推進
	・ 環境美化活動の参加者数 24万人/年 目標： ・ 「おもてなし清掃」 7月頃に県外の人にも呼びかけ、国スポ・障スポ会場周辺の清掃を行う。
	○産業廃棄物不法投棄等不適正処理事案の未然防止・早期発見・早期解決
	・ 産業廃棄物処理施設等のうち要監視対象者への立入検査の実施率 100% 目標： ・ 産業廃棄物不法投棄等事案のうち発生年度内解決率 75%以上
	○【見直し・効率化】デジタル技術の活用による業務効率化
	・ 散在性ごみの分布状況の見える化に向けたAI技術の導入。 目標： ・ 収入証紙廃止に伴う許認可申請手数料の遠隔地納付(電子決済)の検討。

所属名	最終処分場特別対策室
R7年度に特に注力する事項（目標）	○旧RD処分場の安定化プロセスの着実な推進
	・ 水浄化システムの管理、必要に応じた維持補修を通じ、対策工事の有効性の確認（本年度末目途）、安定化に向けた取組を着実に進める。 目標：
	○アーカイブの作成
	・ 事案から得た教訓を後世に活かしていくため、本年度末の完成を目標に、周辺自治会・県・市で構成する連絡協議会で編集を進める。 目標：
	○【見直し・効率化】所属保管文書の電子管理化
	・ 所属内で保管する文書の情報をシステムに登録し、重要文書の公文書館への移管体制を整えるとともに、ペーパーストックレスに取り組む。 目標：

所属名	下水道課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○関係部局および市町との連携による円滑な下水道事業の推進 目標： ・市町との調整による令和8年度の事業計画の策定。 ・市町と実務的な議論を行うWGの設置、汚水処理施設整備構想の改定。
	○防災力および経営基盤強化に向けた上下水道一体での運営の検討 目標： ・令和8年度までに一定の方向性を打ち出すため、関係所属との検討を推進。
	○「THEシガパーク」魅力ある矢橋帰帆島公園づくりで周辺地域活性化へ貢献 目標： ・何度も訪れたい公園を目指し、令和8年度の「子どもの広場」完全リニューアルに向けて、令和7年度は一部エリアで先行リニューアル。
	○【見直し・効率化】ペーパーレス推進のためのデータ整理 目標： ・サーバーに保存されているデータの整理、不要なファイルの削除。

所属名	森林政策課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○造林公社の抜本的見直し 目標： ・造林公社について、あり方検討委員会での議論を踏まえ、年度内に最終的な方針を取りまとめる。 ・あり方検討委員会と並行して、公社林を含む奥地水源林の多面的機能の持続的発揮について、森林審議会において議論を2回行い、琵琶湖森林づくり基本計画に反映する。
	○琵琶湖森林づくり基本計画（第2期）の見直し 目標： ・100年後の森林の姿を見据えた検討を、森林づくり県民税の見直しの検討と併せて行い、年度末までに基本計画の策定を行う。 森林審議会での議論2回、税制審議会での議論2回
	○未来技術の活用検討 目標： ・産学官と連携し、AI、ICT、ロボット技術等の導入による将来像を検討する。
	○「やまの健康2.0」の推進 目標： ・「やまの健康」2.0をさらに進めるため、企業コミュニティーを構築し、「やま」に関わる企業の裾野を広げる。 参画する企業数50
	○【見直し・効率化】衛星画像を活用した森林管理による業務効率化 目標： ・県営（有）林の管理において、定期的に更新される衛星画像による森林管理手法を導入し、巡視回数の効率化を図る。 540人日→280人日、6回／県営林→2～4回／県営林

所属名	びわ湖材流通推進課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○ウッド・チェンジ ～木づかいで滋賀の森をよくする～ 目標： ・木育施設「しがモック」の利用者数 12,500人 ・木材利用促進のためのフォーラムの開催（建築関係5団体、川上川中関係者） ・木質バイオマス発電に関心を示す民間事業者を支援するとともに、バイオマス資源の可能性と課題を先進事例から学ぶ。
	○素材生産量16.5万 m³（R12）の達成に向けた「新しい林業」の推進 目標： ・ICT林業を実践できる人材育成のためのモデル地区 2地区 ・オーストリア林業との交流と発信。 ・零細な林業事業体の雇用環境の改善のため、森林組合等への調査、指導 7箇所 ・産学官と連携し、林業や木材産業の魅力化・省力化となるイノベーションに関する知見を収集する。
	○【見直し・効率化】研修成果の共有による職員の資質向上 目標： ・森林政策課、びわ湖材流通推進課および森林保全課の各係が所管する研修等をdesknet's NEOのスケジュール機能を用い、県庁・各森林整備事務所との情報共有を図るとともに、日程や内容について効率的に調整を行う。

所属名	森林保全課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○森林吸収源確保に向けた計画的な伐採と着実な再造林の推進 目標： ・再造林面積50haの実施と林道・林業専用道等の計画的な整備を推進する。
	○高時川濁水対策の推進 目標： ・濁水対策に係る取組を継続し、高時川濁水問題検討会議（2回開催）で効果の検証や更なる対策を検討するとともに、濁水だけでなく今後の高時川流域のあり方についても横断的に考えていく。
	○治山施設の安全・安心の向上 目標： ・伊吹山にみられるように、近年の異常気象による豪雨の増加等により治山事業を実施した箇所においても土石流等の災害が発生するおそれが高まっていることから、全県の治山施設の個別施設計画の見直しを行い、新たに対象施設を100箇所追加する。
	○【見直し・効率化】衛星画像を活用した業務効率化 目標： ・衛星画像により荒廃森林の把握や開発行為の確認を行い、業務の効率化を図る。

所属名	自然環境保全課
R7年度に特に注力する事項（目標）	○伊吹山保全対策の推進 目標： ・伊吹山保全対策に係るロードマップ（R7.3策定）に基づき南側斜面における植生復元事業を着実に実施。 ・高標高域におけるシカの効果的な試行捕獲の実施。
	○自然公園の魅力向上（民間連携事例の形成） 目標： ・新旭浜園地（高島市）では、再整備の設計委託を行うとともに、民間事業者等と連携の手法について検討。 ・岡山園地（近江八幡市）では、民間事業の実施を想定した再整備方針を策定。 ・これら以外の園地でも、民間との連携事例（ネーミングライツ等）の形成を目指す。
	○生物多様性しが戦略2024の推進 目標： ・地域における企業等の連携した取組や、新たな自然共生サイトの認定を促進する「ネイチャーポジティブ・ネットワーク」を立ち上げ。（県南部の瀬田・草津地域で取組を具体化） ・ネイチャーポジティブに係る企業の野心的な取組を促進する認証制度の見直しと金融機関と連携したインセンティブの導入。
	○【見直し・効率化】 国の捕獲情報収集システムへの移行（県内狩猟免許所持者一元管理）に向けた準備 目標： ・狩猟者台帳（紙）の電子データ化(3年計画) 登録人数 令和6年度： 1,143人(実績) 令和7年度：約 600人 令和8年度：約 600人